

施設見学会報告

昭和20年5月29日、横浜市内にアメリカ軍（連合軍）による大空襲があったことをご存知の方は多いと思います。が、横浜市内に先の大戦で実際に使われた旧海軍連合艦隊総司令部があったことをご存知の方は、多くはないのではないのでしょうか。



去る12月3日（火）午後、慶應義塾大学日吉キャンパス敷地内（港北区）にあります日吉台地下壕へ、25名の委員が参加して施設見学に出向きました。

日吉駅に1時に集合、日吉台地下壕保存の会のボランティアの方の案内で大学構内へ。校舎の一角で日吉への大学施設誘致の経緯や、地下壕建設の背景について説明を受け、いよいよキャンパスの奥手にある地下壕入り口を目指して出発しました。途中、

校舎に残された戦前の名残を見学。運動場の裏手にある地下壕入り口に到着し、各々懐中電灯を手にゆっくりと壕内を下って行きます。

地下30mの所に総計数kmに亘って掘り巡らされた地下壕は、およそ2ヶ月で完成されたものの説明に、簡易の照明しかない現在の壕内に当時の設えは全くないのですが、その冷え冷えとした空間から、当時の連合艦隊総司令部の緊張感、そして、日本の置かれていた状況の非情さが察せられ、一同言葉を失ってしまいました。

地下壕の中心部分の見学を終え、大学構内の日本キリスト教青年会館（日吉チャペル）を見学。その後、2011年横浜市の歴史的建造物の認定も受けた寄宿舍付近へ移動して、連合艦隊総司令部の地上執務室にもなったそのモダンな外観を遠望しつつ説明を受けて散会しました。



教えていただく機会の少ない近・現代史の一端に触れ、神奈川区のすぐ近くにある貴重な戦争遺産から私達が学ぶべきことは多い、と感じさせられた今回の施設見学会でした。